

-istic の派生について*

高橋 勝 忠

0. 序

-isticの接尾辞は線形的には -istのあとに -icの接尾辞が結合しているように見える。確かに、Xistの派生語の多くがXisticの派生語も有している。

- (1) animist (アニミズム論者) animistic (アニミズム論者の)、atheist (無神論者) atheistic (無神論者の)、capitalist (資本主義者、資本家) capitalistic (資本家の)、socialist (社会主義者) socialistic (社会主義者の)、royalist (王政主義者) royalistic (王政主義者の)

しかし、Xisticの派生語の意味が、(1)のように -istの「～者」、「～家」の意味を継承している場合はむしろ少ないことが分かる¹。

- (2) biologist (生物学者) biologicistic (生物主義の)、environmentalist (環境問題専門家) environmentalistic (環境説の)、folklorist (民俗学者) folkloristic (民俗学的)、naturalist (自然主義者) naturalistic (自然主義の)²、psychologist (心理学者) psychologicistic (心理主義の)

本稿では -isticの派生を考える上で、第1節において、-isticの接尾辞の意味と関係が深い -ismの接尾辞を -istと比較しながら、両者の共通点・相違点を述べる。第2節では、-isticの派生を -ismの派生から導く Aronoff (1976) の分析

1 (1) の Xistic の各派生語には「～者」、「～家」を省略した意味も含まれる。

2 naturalistic には「博物学的」の意味もあるが、この場合は「～者」の意味を継承する。

と -ic の派生に音韻条件を課す Strauss (1983) の分析を紹介し、それぞれの立場における問題点を指摘する。第3節では、-istic の派生方法として、1) Xism の派生語から -ism を切り取り後 -istic を付加して生成する場合 (すなわち、X (ism) ϕ +istic)³、2) Xist の派生語に -ic を直接付加して生成する場合 (すなわち、Xist+ic)、3) X に -istic を直接付加して生成する場合 (すなわち、X+istic)、さらに、4) Xistics の派生語から s を切り取って生成する場合 (すなわち、Xistic (s) ϕ) の4種類の派生過程があることを示す。

1) は、-istic の派生には Xism の派生語が存在することが前提となり、(2) に見られるような多くの Xistic の派生語に Xism の意味があることを説明する。一方、2) 3) 4) の派生過程は、1) と比べると生産性の低い派生過程であるが、2) は -ist の意味を踏まえて「～者の」、「～家の」となり、(1) の -istic の派生過程を説明する。3) は X が名詞の場合が主となるが X と関係した意味を持ち、-ist や -ism の意味は含まれないことを示す (例、stylistic)。

4) は通常の派生過程の方向とは反対に、逆成により生成されることを示す (例、statisitic)。

1. -ism と -ist

-istic の接尾辞が -ism や -ist と関係することは、Jespersen (1942) や Marchand (1960) において、最近では國廣・堀内 (1999) の中で指摘されている。特に、Marchand (1960:246) は、-istic は -ism と -ist の形容詞形として派生されるが、歴史的には -istic は -ist の語から派生され、その後 -ism との関係で使用されるようになったことが指摘されている。

本節では、-istic の派生を考える上で重要な -ism・-ist について比較検討し、共通点・相違点を述べる。

まず、両接尾辞の共通点から見ていく。いずれの接尾辞も付加される基体の品詞は、(3) のイタリックが示すように、名詞 (N) か形容詞 (A) である。し

3 ϕ は以降、直前の括弧内の要素が切り取られることを示す。

たがって、辞書 (lexicon) の中では、-ism・-istは [+{N/A}] のように下位範疇化されることになる。⁴

- (3) a. *behaviorism* (ist), *expressionism* (ist),
receptionism (ist), *terrorism* (ist)
b. *Europeanism* (ist), *idealism* (ist),
realism (ist), *socialism* (ist)

また、両接尾辞とも語より小さな拘束語根 (bound root) の基体に付加する。

- (4) *deism* (ist), *facism* (ist), *plagiarism* (ist)

語彙音韻論の立場からすると、(3) は -ism・-istがレベル2で、(4) は -ism・-istがレベル1ということになる。⁵

両接尾辞の共通点の2つ目は、ギリシャ語、ラテン語、フランス語からの借入語が多い点である。具体的には、-ismはギリシャ語の -ismós、ラテン語の -ismus、フランス語の -ismeの派生語から借入され、-istはギリシャ語の -istes、ラテン語の -ista、フランス語の -isteの派生語から借入されている。

- (5) a. GK: *archaísmós* → *archaism* (古風な表現)
L: *egoismus* → *egoism* (利己主義)
F: *industrialisme* → *industrialism* (個人主義)
b. GK: *sophistes* → *sophist* (古代ギリシャのソフィスト、詭弁家)
L: *organista* → *organist* (オルガン奏者)
F: *Bonapartiste* → *Bonapartist* (ボナパル家の支持者)

-ism・-istは英語本来の語に付くが、ギリシャ語、ラテン語、フランス語からの借入もあり、実際のところ英語本来の語であるのか外国からの借入語である

4 下位範疇化素性の詳細なリストに関しては、高橋 (1994)、高橋・福田 (2001) を参照。

5 -ismや -istの二重性に関しては、中村 (1996)、Giegerich (1999) を参照。

のか区別がつかない場合（例、cyclist⁶）や、1つの単語に2つの形が存在する場合（例、pianist（ピアニスト）、pianiste（女性のピアニスト）⁷）がある。しかしながら、両接尾辞に共通する3つ目の特徴として、-ism・-istは英語本来の語に付加することが挙げられる（(6)の例）。また、生産性は低いが英語本来の複合語や句に付加する場合がある（(7)の例）（Jespersen（1942: 334-336））。

- (6) a. blackguardism（ごろつきの振る舞い）、landlordism（地主制度）、
truisim（自明の理）
b. faddist（気まぐれ者）、landscapist（風景画家）
- (7) a. old-maidism, dog-in-the-mangerism
b. red-tapist, free-knowledge-ist

次に、両接尾辞の相違点について見てみよう。最初に、形態的な違いに言及する。(8a)が示すように、-istは -icや -icalの接尾辞を後続させることができる。⁸一方、-ismは(8b)が示すように、一般的に -icや -icalの接尾辞を後続させることができない。⁹

6 Jespersen（1942: 333）によると、cyclistはフランス語から由来したのか英語本来の語なのか決定できないとしている。

7 Jespersen（1942: 334）は、pianistも pianisteもフランス語から由来するが、pianisteのeは女性形であると仮定している。

8 -isticや -isticalのあとに、さらに -lyを付加して副詞にする場合に、-isticallyの派生は許されるが -isticlyの派生は許されない。agonistically（*agonisticly）、atomistically（*atomisticly）、theistically（*theisticly）

9 Lehnert（1971）と Walker（1983）の辞書を調べてみると、-ismのあとに -icや -icalを付加する例として、aphorismic（ことわざの）、embolismical（塞栓症の）、seismic/ical（地震の）、strabismic/ical（斜視の）の4個が載せられていた。ちなみに、-ismの前に -icや -icalが生じるかを調べてみると、Walker（1983）には -icismの例として84個、-icalismの例として9個が載せられていた。

一方、-istのあとに -icや -icalを付加する例は、Walker（1983）では -isticが143個、-isticalが20個載せられていた。また、-istの前に -icや -icalが生じる例は、Lehnert（1971）では -icistが37個、-icalistとして classicalist（古典主義者）、clericalist（聖職権主張者）、syndicalist（労働組合主義者）の3個が載せられていた。-icalistの派生は、-ismic、-ismicalと同様に生産性は低いものと考えられる。

- (8) a. agonist → agonistic → agonistical
 atomist → atomistic → atomistical
 theist → theistic → theistical
- b. dualism → *dualismic → *dualismical
 nationalism → *nationalismic → *nationalismical
 symbolism → *symbolismic → *symbolismical

次に、両接尾辞の意味的な違いについて言及する。Jespersen (1942)、Marchand (1960)、Giegerich (1999) を参考にしながら -ism と -ist の意味をまとめると (9)、(10) のようになる (括弧の中に各派生語の意味と、対応する -ist・-ism の形が有るか無いかを示している)。

(9) -ism の意味

- a. 主義、制度、運動、学説 (学論)
 (例) idealism (理想主義、-ist)、federalism (連邦制度、-ist)、muralism (壁画運動、-ist)、Mendelism (メンデル学説、-ist)
- b. 文化・語法などの特質、気質・精神などの特性
 (例) Africanism (アフリカ文化の特質、-ist)、Italianism (イタリア語法、-ist)、medievalism (中世の精神、-ist)
- c. 常習、中毒¹⁰
 (例) alcoholism (アルコール中毒、-ist)、ergotism (麦角中毒、*-ist)、locoism (口コ草中毒、*-ist)、narcotism (麻薬中毒、-ist)
- d. 病気 (の症状)
 (例) parkinsonism (パーキンソン病、*-ist)、albinism (白皮症、*-ist)、autism (自閉症、*-ist)、melanism (黒色症、*-ist)
- e. 化学的・生理的 (生物的)・物理的作用や性質
 (例) racemism (ラセミ性、*-ist)、catabolism (異化作用、分解代謝、*-ist) dichroism (二色性、*-ist)

10 absinthism (アブサン酒中毒、*-ist) や cocaineism (コカイン中毒、*-ist) のように、具体的にアルコール中毒や麻薬中毒の中身を示すと -ist の形が存在しないようである。

(10) -istの意味

- a. 主義、制度、運動、学説（学論）の支持者（信奉者）
 - (例) classicist (古典主義者、-ism)、despotist (独裁君主制論者、-ism)、Pentecostalist (聖霊降臨運動家、-ism)、nominalist (唯名論者、-ism)
- b. ~の性格や癖（傾向）がある人
 - (例) mannerist (癖のある人、-ism)、pessimist (悲観的な人、-ism)、exhibitionist (自己顕示欲の強い人、-ism)
- c. 職業（医者、音楽家などの専門職）、達人、学者
 - (例) artist (芸術家、*-ism)、dentist (歯医者、*-ism)、abacist (珠算の達人、*-ism)、geologist (地質学者、*-ism)
- d. 行為者（ある行為、行動を取る人）
 - (例) bigamist (重婚者、*-ism)、flutist (フルート奏者、笛吹き、*-ism)、homilist (説教をする人、*-ism)、modelist (模型を作る人、*-ism)

2. 先行研究

本節では、-isticの派生に関するAronoff (1976) とStrauss (1983) の分析を紹介し、それぞれの問題点を指摘する。

Aronoff (1976: 118-121) はWalker (1936) の派生語リストに基づいて、-istic, -ist, -ismの関係を分類している。

Aronoffは、Walker (1936) に記載されているXistic_nの派生語145個のうち、(11) における28個がXist_nの形が存在しないことを指摘する。

- (11) a. characteristic (特徴的)、logistic (兵站学の)、mediumistic (降神術の)、phlogistic (燃素の)、harmonistic (和声法の、和声学者の)、patristic (教父の)、heuristic (発見的教授法の)、eristic (論争的、論争者)、ballistic (弾道(学)の)
- b. solecistic (文法違反の、無作法な)、sufistic (イスラム神秘主義の)、syllogistic (三段論法の)、neologistic (新語の)、catabolistic (異化作用の)、formulistic (方式主義の)、euphemistic (婉曲語法の)、animistic (アニミズム論(者)の)、totemistic (トータルム

信仰の)、melanistic (黒性の)、shamanistic (シャマン教の)、
 eudemonistic (幸福説の)、synchronistic (同期状態の)、anachro-
 nistic (時代錯誤の)、hylozoistic (物活論の)、hetaeristic (同棲
 の)、poristic (不定命題の)、euphuistic (美辞麗句の)、humoral-
 istic (液体病理学の)

また、(11a) の9個と (12) に挙げる17個の合計26個の派生語には、 $Xism_N$
 の形が存在しないことを指摘する ((12) の例は、 $Xist_N$ の形は存在する)。

- (12) haggadistic (haggadist (ハガダ(=タルムード法典のたとえ話)を
 書く人)の)、talmudistic (タルムード(学者)の)、elohistic (エロヒ
 ストに関係する)、eulogistic (賛辞に関係する)、yahwistic (ヤハ
 ウイストの、ヤハウエ信仰の)、annualistic¹¹、novelistic (小説の)、
 artistic (芸術(家)的)、coloristic (色彩の、色彩画家的)、casuistic
 (決疑論(者)の)、oculistic (眼科医の)、stylistic (文体(論)の)、
 eucharistic (聖体の、聖餐式の)、diaristic (日記の、日記担当者の)、
 folkloristic (民族学的)、juristic (法学(者)の)、linguistic (言語学
 の)

Aronoff (1976: 119) は、Walker (1936) における -istic, -ist, -ism の派生語リ
 ストの集計結果を (13) のようにまとめている。

- (13) Total $Xistic_A$ 145
 a. $Xistic_A, Xist_N, Xism_N$ 100
 b. $Xistic_A, *Xist_N, Xism_N$ 19 = (11b)
 c. $Xistic_A, Xist_N, *Xism_N$ 17 = (12)
 d. $Xistic_A, *Xist_N, *Xism_N$ 9 = (11a)

11 annualist (rare) はOEDにあるが、annualisticは載せられていない。

しかし、実際にOEDで調べてみると、¹² (11a) の *heuristic* と *mediumistic* は *-ist* の形は存在しないが *-ism* は載せており、(13b) の型になる。また、(11a) の *harmonistic* と *patristic* は *-ism* の形は存在しないが *-ist* は載せており、(13c) の型になる。さらに、(11a) の *characteristic* は *-ism* と *-ist* の両方の形を載せており、(13a) の型になる。

驚いたのは、(11b) において *Xist_N* の形が存在しないと分類する 19 個の *Xistic_A* の派生語のうち、*catabolistic*,¹³ *melanistic*, *poristic* の 3 個を除いた 16 個の *Xistic_A* の派生語に *Xist_N* の形が存在することである。(11b) の *Xistic* には *Xism_N* の形はすべて存在するので (11b) の 16 個の派生語は (13a) の型になる (OED は、*solecist* と *synchronist* は (rare) とマークしている)。

また、(12) における派生語には *Xism_N* の形は存在しないと分類するが、OED には、*talmudistic*, *elohistic*, *eulogistic*, *yahwistic*, *novelistic*, *oculistic*, *stylistic*, *folkloristic* の 8 つの語に *Xism_N* の形が載せられていた。¹⁴ したがって、これらの語も (13a) の型になる。

Aronoff (1976) のリストを OED で調べた結果に基づいてまとめ直すと、(13) は (14) のように修正されるであろう。

- (14) Total *Xistic_A* 145
 a. *Xistic_A*, *Xist_N*, *Xism_N* 125
 b. *Xistic_A*, **Xist_N*, *Xism_N* 5
 c. *Xistic_A*, *Xist_N*, **Xism_N* 11
 d. *Xistic_A*, **Xist_N*, **Xism_N* 4

Xistic_A に関する 145 個の派生語について、すべて *-ism* ・ *-ist* の形が存在するか

12 OED で (obs.) のマークの語は廃語として排除するが、(rare) のマークがあるものは一様、派生語として存在するものとみなす。

13 この語自体、OED には載せられていない。

14 *yahwistic* は OED に載せられていなかったので RHD を調べた。OED は *talmudism* と *oculism* は (rare) としている。また、OED は *linguism* を臨時語 (nonce-word) として載せているが、*Xism_N* の形から排除した。

しないかを OED で調べたのではないので、(14) の結果はさらに修正が加えられるであろう。しかしながら、(13) よりも (14) の結果から一層言えることは、Xistic_A の派生語が Xist_N よりも Xism_N に、より密接な関係があるという点である。

Aronoff (1976: 120) はこの点を (15) のようにまとめている。

(15) ある与えられた *X_iist* の語に対して、もし *X_iism* の対応する語が存在しないなら、同様に、*X_iistic* の対応する語も存在できない。

(15) は別の言い方をすると、与えられた *Xism* に対応する *Xistic* の語が存在するかないかは、*Xist* よりも *Xism* そのものの存在と関係が深いということである。Aronoff (1976) は、(15) の一般化を証明するために、次の 22 個の *Xist* の派生語に対して *Xism*・*Xistic* の派生語が存在しないことを示している。¹⁵

(16) archaeologist (考古学者)、meteorologist (気象学者)、alchemist (錬金術師)、botanist (植物学者)、dentist (歯科医)、symphonist (交響曲作曲家)、economist (儉約家、経済学者)、deuteronomist (申命記の作者)、opinionist (固く自説を守る人、異説を唱える人)、extortionist (強要者)、violinist (ビオラ奏者)、cellist (チェロ奏者)、copyist (筆耕)、lobbyist (議案通過運動者)、essayist (随筆家)、reservist (予備兵)、archivist (記録係)、parachutist (落下傘兵)、balloonist (気球手)、canoeist (カヌーの漕ぎ手)、latinist (ラテン語学者)、lichenist (地衣類学者)

しかし、OED を調べると (17a) の 9 個の *Xism* の派生語と、(17b) の 5 個の *Xistic* の派生語が容認されることが分かる。

15 このあと言及する Strauss (1983) の (18) の音韻条件に当てはめると、*dentistic*, *violinistic*, *cellistic*, *copyistic*, *lobbyistic*, *reservistic*, *balloonistic*, *canoeistic* の *Xistic* の派生語がこの音韻条件に抵触し、排除されることが分かる。

- (17) a. symphonism (交響曲音楽)、economism (儉約主義)、copyism (真似し)、lobbyism (院外運動)、essayism (随筆を書く行為)、parachutism (落下傘降下術)、balloonism (気球乗り競技)、latinism (ラテン語法)、lichenism (地衣化)
- b. alchemistic (錬金術(師)的)、dentistic (歯科医の)、deuteronomistic (申命記の作者風の)、essayistic (随筆風の)、latinistic (ラテン語学の、ラテン語風の)

(15) の条件を当てはめると、essayism(istic)、latinism(istic)を除いて、(17a) では symphonism, economism, copyism, lobbyism, parachutism, balloonism, licherism の派生語が存在するのに、対応する Xistic の派生語が何故存在しないのかが問題となる。また、(17b) で alchemistic, dentistic, deuteronomistic の派生語が存在するのに、対応する Xism の派生語が何故存在しないのかが問題となる。

Aronoff 自身、すべての Xism のメンバーに対応する Xistic の形を持っているわけではないことを認めているが (p.120)、(17) のこれらの問題に加えて、(14c, d) における Xistic の派生語が Xism に依存しないでどのように生成されるかを説明する必要性がある。

次に、-istic の派生において音韻条件が働く Strauss (1983) の分析とその問題点を指摘する。Strauss (1983: 422) は、具体的に Xist に -ic を付加する際に、(18) の音韻条件が課されることを仮定している。

- (18) -ic は、X が語彙項目 (lexical item) であるなら、X の末尾の音節に第 1 強勢がない条件の基で Xist に付加できる。

Strauss は、(18) の条件は X が単音節か 2 音節の語彙項目に限定し ((19) の例)、X が 3 音節 (以上) の語彙項目に関しては、末尾の音節に第 1 強勢があるものも含めて Xist に -ic が付加できることを仮定する ((20) の例)。

- (19) séxist → *sexistic

- rácist → *racistic
 caréerist → *careeristic
 cartóonist → *cartoonistic
 (20) Américanist → Americanistic
 beháviortist → behavioristic
 oportúnist → opportunistic¹⁶

しかしながら、Xが3音節の語彙項目でも(18)の条件が働くように思える反例が見つかる。

- (21) clarinét(t)ist (クラリネット奏者) → *clarinet(t)istic,
 Esperántist (エスペラント学者) → *Esperantistic,
 irredéntist (イタリア民族統一党員) → *irredentistic

また、3音節(以上)の語彙項目に関して、第1強勢が末尾の音節に来ない場合でもXisticの派生語が許されない諸例が見つかる。

- (22) opínionist (固く自説を守る人) → *opinionistic
 anthropólogist (人類学者) → *anthropologicistic
 órchestralist (オーケストラ音楽作曲家) → *orchestralistic

(18)の条件は、Xが語彙項目でないなら、すなわち語の資格を持たない語幹(nonword stem)なら、末尾の音節に第1強勢が有る無しにかかわらずXistに-icを付加するのは自由であるとStraussは仮定する((23a)の例)。¹⁷しかし、Xが語彙項目でなくても-icが付加できない場合がある((23b)の例)。

16 この語は米音と英音で強勢パターンが異なるようである。米音の場合は/əpərt(j)ú:n/となり、英音の場合は/əpərt(j)ù:n/となる。したがって、英音の強勢パターンには末尾の音節に第1強勢が含まれない。

17 Strauss (1983: 422) は弱強(iambic)のnonwordの例を1例だけ見つけたとし、hébraist(ヘブライ語学者、ヘブライ主義者)を挙げているが、この語は強弱(trochaic)のリズムを持つ例であり、言っていることが矛盾するように思われる。

- (23) a. júrist (法学者) → juristic
 pópulist (人民党員) → populistic
 b. áurist (耳科医) → *auristic
 pólemist (論争者) → *polemistic

また、Xが2音節の語彙項目で、且つ第1強勢が末尾の音節に来ない場合でも Xisticの派生語が容認されない諸例が見つかる。

- (24) bótanist (植物学者) → *botanistic
 cólonist (海外移住者) → *colonistic
 lápídist (宝石細工人) → *lapidistic

(21)、(22)、(23b)、(24)において、-icが(18)の音韻条件に抵触しないのに、Xisticの派生語が生じてこないことがStraussにとって問題となるが、第1節で見た -ism・-istの意味を考慮することによってこれらの問題が回避されることを次節で検証する。

3. -isticの派生

Aronoff (1976: 121) は、Xisticの派生語がXismの派生語と分布が似ていることから、XismをXisticの基体とみなし、(25)のような調整規則を仮定する。¹⁸

- (25) m → t/s__ +ic

(25) は、Xismに -icを付加する際に、mをtの異形態にする規則である。この規則はXismicの派生を回避して、Xisticの派生語を生成する。Strauss (1983: 423) が指摘するように、Xismicの派生は -ismがレベル2で -icがレベル1となり、

18 Strauss (1983: 423) は (25) の規則を調整規則と考えるので音韻規則とみなしている。しかし、本稿では形態部門で働く異形態規則に匹敵するものと考えたい。したがって、ここではStraussが主張するような「語に基づく形態論」違反の問題は生じて来ない。「語に基づく形態論」に関しては、Aronoff (1976: 21) を参照。

このままでは Aronoff (1976) の分析はレベル順序づけの仮説に違反することになる。

Aronoff (1976: 104) は異形態規則を -tion のようなレベル1の接辞が変化する規則と考えており、¹⁹ -ism のようなレベル2の接辞が (25) の規則を介して -ist に変化するの、この意味でも矛盾することになる。

そこで、(25) の代りに (26) のような規則を仮定してみよう。

(26) $\text{biolog(ism)} \phi + \text{istic} = \text{biologistic}$ (生物主義の)

(26) は異形態規則ではなくて、-ism の切り取り規則を示す。Aronoff は、切り取り規則として -ly のようなレベル2接辞の削除を認めている (p.93)。したがって、-ly の切り取りと同様に、(26) においてレベル2の -ism 接辞を切り取ることは可能であると考えられる。²⁰ しかも、-istic はレベル1の接辞とみなされるので、²¹ レベル2の -ism が切り取られるのは、-istic 付加の際にレベル順序づけ違反を回避するための調整規則とみなすことができる。(26) は Xistic の派生語生成の前提として Xism の派生語が必ず必要となり、その結果 Xistic の派生語に Xism の意味が含まれることが説明される。(2) で挙げた biologistic 以外の Xistic の派生語は (26) のように生成されると仮定する。

一方、(1) で挙げた Xistic の派生語は「～者」、「～家」の意味があり -ist の意味を継承するので、Xist の派生語に -ic が付加して生成されると仮定する。例えば、animistic の派生語は、(27) のような派生過程を経て生成される。

(27) $\text{animist} + \text{ic} = \text{animistic}$ (アニミズム論者の)

animistic は「アニミズム論の」の意味も有しているので、この意味では (26)

19 Aronoff は、-tion には -ation, -ion, -ition, -ution の異形態があると仮定する。

20 -ism のような名詞性の切り取り規則の妥当性については、高橋 (1993) を参照。

21 -istic はそれ自体に強勢があり、基体の強勢移動を引き起こす。

と同様に、(28) の派生過程を経て生成されるものと考えられる。

(28) anim(ism) ϕ +istic=animistic (アニミズム論の)

(1) の Xistic の各派生語はそれぞれの意味に基づいて、(27) か (28) のように生成されるが、(1) と (2) のように Xistic の派生語が「～者」、「～家」の意味を含むか含まないかがどのように決定されるのかは今のところ明らかではない。確かなのは、(1) と (2) の Xistic の派生語が (14a) の型に属するということである。この型に属する Xistic の派生語の多くは (2) のように Xism の意味を継承すると考えられるが、Xist と Xism の両方の派生語が存在するため (1) の Xistic の派生語のように 2 通りの解釈が可能になるものと思われる。

これに対して、(14b) の型に属する (29) の派生語は Xist の派生語が存在しないことから、Xistic の意味は Xism に依存することが予測される。

(29) heuristic (発見的教授法の) heurism (発見教授主義)、mediumistic (降神術の) mediumism (降神術)、catabolistic (異化作用の) catabolism (異化作用)、melanistic (黒性の) melanism (黒性)、poristic (不定命題の) porism (不定命題)

(29) は、Xistic の派生語が Xism の派生語と意味的に関係することを裏付けると同時に、Xistic の派生語が -ist に -ic を付加して生成されない証拠を与える。(29) の -istic の派生は、例えば melanistic の場合は (30) のようになる。

(30) melan(ism) ϕ +istic=melanistic

次に、(14c) の型に属する Xistic の派生語の派生過程について見てみよう。この型の派生語は Xism の派生語が存在しないことから、Xistic の意味は Xist に依存することが予測される。

- (31) harmonistic (和声法の、和声学者の) harmonist (和声学者)、patristic (教父の) patrist (教父)、haggadistic (ハガダを書く人の) haggadist (ハガダを書く人)、annualistic²² annualist (年報を書く人)、artistic (芸術(家)的) artist (芸術家)、coloristic (色彩の、色彩画家的) colorist (色彩画家)、casuistic (決疑論(者)の) casuist (決疑論者)、eucharistic (聖体の、聖餐式の)、eucharist (聖体、聖餐式)、diaristic (日記の、日記担当者の) diarist (日記担当者、juristic (法学(者)の) jurist (法学者)、linguistic (言語学の) linguist (言語学者)

(31) は、casuistic (決疑論の)、juristic (法学の)、linguistic (言語学の) の Xistics からの逆成によって生成される3つの例と、harmonistic (和声法の)、artistic (芸術的)、coloristic (色彩の)、diaristic (日記の) の意味を除けば、Xistic の派生語が Xist の意味を継承している。したがって、(31) の Xistic の派生語は Xist に依存する証拠を与える。(31) の Xistic の派生語は、例えば patristic の場合は (32) のようになる。

(32) patrist+ic=patristic

(14d) の型に属する Xistic の派生語を見てみよう。この型の派生語は Xism も Xist の派生語も含まないので -istic の派生は X に依存することが予測される。

- (33) characteristic (特徴的) X=character (特徴)、phlogistic (燃素の)
X=phlogiston (燃素)、eristic (論争的) X=Eris (ギリシャ神話のエリス)、ballistic (弾道の) X=ballista (古代の攻城石投げ装置)

ギリシャ神話のエリスは争いの女神である。古代の攻城石投げ装置は弾道ミサイル的なものであろう。(33) の例は characteristic を除くと X の形はギリシャ語やラテン語から由来する拘束語根となる。(14d) 型の Xistic の派生語は、X

22 注の11を参照。

が語の資格を持たない特徴があるのかも知れない。いずれにしても、Xの形と意味に依存する characteristic の派生語があり、(14d) 以外の型には、Xに依存する -istic の派生が多く見られるので、(34) のような派生過程を仮定するのは妥当であると思われる。

- (34) character (特徴)+istic=characteristic (特徴的)
 novel (小説)+istic=novelistic (小説の) (14aの型)
 style (文体)+istic=stylistic (文体の) (14aの型)
 art (芸術)+istic=artistic (芸術的) (14cの型)
 color (色彩)+istic=coloristic (色彩の) (14cの型)

(14d) の型に属し、Xの形を特定できない logistic (兵站学の)、ballistic (弾道学の) は「～学」という意味を考慮すると、Xistics からs切り取りにより生成されると仮定する。

- (35) logistics (兵站学) (s) ϕ =logistic
 ballistics (弾道学) (s) ϕ =ballistic

(14d) 以外の型にもこの派生過程が当てはまるとされる例がある。²³

- (36) stylistics (文体論) (s) ϕ =stylistic (文体論の) (14aの型)
 statistics (統計学) (s) ϕ =statistic (統計学上の) (14cの型)
 floristics (植物区系学) (s) ϕ =floristic (植物区系学の) (14cの型)
 linguistics (言語学) (s) ϕ =linguistic (言語学の) (14cの型)

Aronoffが挙げた (17b) の例は、essayistic と latinistic を除いて (14c) の型になるので Xistic の派生語は Xist の意味を継承する。

23 (36) の例は、(35) の例と異なり Xist の派生語が存在する。しかし、Xistic の派生語には Xist の派生語に見られる、「～者」、「～家」の意味は含まれていないことに注意したい。なお、florist は「花屋」の意味を持つ。

- (37) alchemistic (錬金術師的) alchemist (錬金術師)、dentistic (歯科医の)、dentist (歯科医)、deuteronomistic (申命記の作者風の) deuteronmist (申命記の作者)

しかし、問題になるのは *essayism* と *latinism* を除いた (17a) の例である。Xism と Xist が存在するが、何故 Xistic の派生語が存在しないかである。

Strauss (1983) が提案する (18) の条件に抵触しないが何故 (21)、(22)、(23b)、(24) の諸例に対して Xistic の派生語が生じるかについて最後に検討する。これらの諸例のうち、(21) の *Esperantist*, *irredentist* を除いて Xism が存在しないことが分かる。したがって、Aronoff が指摘する (15) の一般化に当てはめると、Xistic の派生語も存在しないことが予測される。ただし、*Esperantistic* と *irredentistic* に関しては、(18) の音韻条件を3音節以上の語彙項目に対しても働くように強力にする必要があるであろう。²⁴

4. 結 語

-istic の派生は -ist に単純に -ic を付加したのではないことを本稿では主張してきた。-istic の意味を見ると多くの派生語が -ism の意味を持つことから、(26) のように Xism の派生語から -ism を切り取り後、-istic を付加する規則があることを提案した。

また、生産性は低いだが、-istic の派生が -ist の意味を継承する場合に、(27) のように -ist に -ic を直接付加する派生過程があることを提案した。さらに、-istic の派生が (26) や (27) のように -ist や -ism に依存するのではなくて、(34) のように、Xistic の X の意味に依存すると思われる派生過程があることを提案した。(26)、(27)、(34) の Xistic の派生過程は、前から後ろに派生が進むという意味で順行的だが、(35) のように、Xistics の派生語から s を切り取り

²⁴ Goldsmith (1990: 269) によると、*alarmistic* の派生語が生成されないのは、前から2つ目の音節 (*alárm*) と3つ目の音節 (*istic*) に同時に第1強勢が来る理由による。いわゆる強勢衝突で、この音韻条件が3音節以上の語彙項目にも働くように思われる。

後、Xisticの派生語を生成する逆行的な派生過程があることも提案した。4つの派生過程を見ると、Xisticの派生語が-ist, -ism, -isticsの接辞の意味と深く関係し、これらの接辞がXisticの派生語の基体になるかならないかによって、Xisticの派生語に含まれる意味が決定されるように思われる。(14a, b, c, d)の4つの型はXisticの派生語に-ism, -istの接辞が含まれるかどうかを具体的に示したもので、Xisticの意味がそれらの接辞の分布によってある程度予測できることを本稿では示してきた。145個すべてのXisticの派生語について-ism, -istの形が有るか無いかをOEDで調べるのは今後の課題であるが、同時にXisticの派生語に対してXに関する意味や-isticsに関する意味が有るか無いかも検討しなければならない。また、(14a)の型において、Xisticの派生語の「～者」、「～家」の意味を含むか含まないかが何によって決定されるのかを今後調べていきたい。最後に、第1節の(9)、(10)で見た-ismと-istの意味に対応する-istと-ismの分布を考慮に入れ、-ismと-istが成立するための意味条件をまとめておく。

- I. -ism・-istが成立するための意味条件
 - 1) (9a) と (10a) の意味関係を持つ場合
 - 2) (9b) と (10b) の意味を持つ場合
- II. -ismが成立するが、-istが成立しない意味条件
 - 1) (9c) と (9d) と (9e) の意味を持つ場合
- III. -istが成立するが、-ismが成立しない意味条件
 - 1) (10c) と (10d) の意味を持つ場合

*本稿の内容は、平成13年12月16日に開催された関西英語学研究会（甲南大学於）において口頭発表したものである。その席上において、荒木一雄先生、有村兼彬先生、加藤正治先生、並びにハーバード大学大学院生の中谷健太郎氏、神戸大学大学院生のPrashant Pardeshiより貴重なコメントをいただいた。この紙面を借りてお礼を申し上げたい。

References

辞典

- Collins Cobuild English Guides: Word Formation*. (コリンズ コウビルド英語表現活用シリーズ 2 『語形成』) 秀文インターナショナル. 1991.
- Lehnert, M. 1971. *Reverse Dictionary of Present-Day English*. Leipzig: VEB Verlag Enzyklopädie.
- OED = The Oxford English Dictionary*, prepared by J. A. Simpson and E. S. C. Weiner. Second edition. Oxford: Clarendon Press. 1989.
- RHD = The Random House Dictionary of the English Language*, ed. by S. B. Flexner. Second edition. New York: Random House. 1987.
- Walker's Rhyming Dictionary of the English Language*. New edition with supplement compiled by Michael Freeman. Routledge & Kegan Paul. 1983.
- Webster's Third New International Dictionary of the English Language*, ed. by P. B. Grove. Mass.: G. & C. Merriam Company, 1971.
- Aronoff, M. 1976. *Word Formation in Generative Grammar*. MIT Press.
- Giegerich, H. J. 1999. *Lexical Strata in English: Morphological Causes, Phonological Effects*. (Cambridge Studies in Linguistics; 89). Cambridge: Cambridge University Press.
- Goldsmith, J. A. 1990. *Autosegmental and Metrical Phonology*. Oxford: Basil Blackwell.
- Jespersen, O. 1942. *A Modern English Grammar on Historical Principles. Part VI: Morphology*. London: George Allen & Unwin.
- 國廣哲彌・堀内克明編. 1999. 『プログレッシブ英語逆引き辞典』東京：小学館.
- Marchand, H. 1960. *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation: A Synchronic-Diachronic Approach*. Wiesbaden: Otto

Harrassowitz.

中村浩一郎. 1996. 「-Ism」『帝京大学文学部紀要 英語英文学』27号.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, and J. Svartvik. 1972. *A Grammar of Contemporary English*. London: Longman.

Siegel, D. 1974. *Topics in English Morphology*. Ph. D. dissertation, MIT.

Strauss, S.L. 1983. "Stress Assignment as Morphological Adjustment in English." *Linguistic Analysis* 11.

高橋勝忠. 1993. 「語形成における切り取り規則」『言語学からの眺望』（福岡言語学研究会編）九州大学出版会.

高橋勝忠. 1994. 「英語の派生語形成に見られる一般性」『ことばの音と形（枅矢好弘教授還暦記念論文集刊行会編）』東京：こびあん書房.

高橋勝忠. 福田稔. 2001. 『英語学セミナー 思考鍛練のための言葉学』東京：松柏社.

Walker, J. 1936. *Walker's Rhyming Dictionary*, revised and enlarged by L. H. Dawson, Dutton, New York.